9章　総合問題9

問題

【1】

A.

全訳

まず最初に過去に対するアメリカの態度を見てみよう。それは，我々の科学技術の文化によって大部分が形成されてきたものである。アメリカは一般に言われるように，遺跡も廃墟もない国である。すなわち，すべてのヨーロッパの人々が持ち，最も身分の低い農民や労働者ですら，少なくとも最も大まかな輪郭において，その意味をほとんど無視できない，先祖伝来の精神の消すことのできない足跡がないのである。アメリカは過去から逃走した人々の国である。そこに住む人々は，自分たちの生活から波乱に満ちた過去を取り去ろうと固く決意した人々の中から，移住によって選び抜かれたのであった。関心を未来にじっと向けたら，アメリカ人は自分たちが広大な土地と資源に囲まれ，労働力と技術の不足に悩むということがわかった。そこで彼らは国の豊かさを解放し，豊かな未来への扉を開くであろう技術の知識や創意を重視した。

B.

全訳

子供の学校の友達が招かれた集まりの後で，自分の椅子に身を沈め，結局のところそうまずい振る舞いをしなくて済んだ，とつぶやくことのできる父親の幸福感ほど大きな幸福感はないそうだ。試験に合格することはいつでも喜ばしいことであるが，子供の友達に試験されてそれに合格することほどありがたい安堵感を与えてくれる試験はない。

父親たちは，そのような機会に子供の内に見られる落着きのない様子について私に語った。例えば，オチのない，あるいは誰にもわからないオチを持った冗談に対して「父さんがまたばかなことをしている」という言葉に出さない独り言を父親に伝える小さな顔のいらいらした表情についてである。父親のために震えている子供を哀れみ給え。自分自身のために震えている父親を哀れみ給え。幸福なのは，友達の面前で頼もしく振る舞ってくれる父親を持った子供である。

【2】

解答

（1）「**全訳**」の下線部ⓐ，ⓑ，ⓔ，ⓕ，ⓖ，ⓗを参照。

（2）非常に几帳面な人は別にして，我々は医者が処方した薬を忘れないで飲むことができないということ。

（3）多くの人が指定された時間に薬を飲むのを忘れてしまうのは，薬に対する反感のためであるということ。

（4）他人から投函するように頼まれたが，投函するのを忘れたままポケットにしまいこま

れていた手紙。

解説

（1） ⓐ There are, it must be admitted, some matters (in regard to which the memory works with less than its usual perfection)

≒ It must be admitted that there are some matters in regard to which the memory works with less than its usual perfection

with less than its usual perfection「通常以下の完全さを伴って」《直訳》→「通常よりも不完全に」

ⓑ≒ I imagine that it is only a very methodical man who can always remember to take the medicine his doctor has prescribed for him.　it is ～ who … は強調構文。

○ methodical「几帳面な」 *cf.* method

○ remember to …「…することを忘れない；忘れずに…する」

cf. remember …ing（…したことを覚えている）

○ take the medicine　*cf.* take a medicine（薬を飲む）

○ prescribe A for B「AをBに処方する」

ⓔ This does not explain の目的語となる節。

how it is that …「…というのはなぜかということ」 強調構文。how は「理由」を表す。間接疑問文なので it is と平叙文の語順になっている。

○ explain = make ～ clear

○ lifelong「終生の」限定用法のみ。

○ devotee「愛好者；熱愛者」 *cf.* devote

○ like *prep.*「～のような」

○ as ～ as …「…と同じくらい～」

○ be forgetful of ～「～をおこたりがちである；～を忘れる」

be fond of = like のように，「be + 形容詞 + 前置詞」は動詞として処理できることが多い。

○ those who …「…する人々」

○ unwillingly「嫌々ながら」（= reluctantly）

ⓕ make one's fortune「財産を作る」

ⓖ *So little* do I rely on his memory *that* … は，I rely *so little* on his memory *that* … の so little が文頭に出て疑問文の形になった倒置形。

○ little「ほとんど～ない」

○ rely on ～「～を頼る；信頼する」

○ put〔place〕～ on〔under〕oath「～に宣誓させる；誓わせる」

○ hand A to B「AをBに手渡す」

ⓗ Weary of holding it in my hand，準補語。

○ put A into B「AをBに入れる」

（2） 直前の下線部ⓑから I imagine をとった内容を指す。

（3） 直前の it may be that … から it may be をとった，つまり that 節の内容を指す。

（4） my guilt とは「頼まれた手紙を投函し忘れたこと」であり，その証拠（the evidence）として，「ポケットの中に手紙が残っていること」を表す。単なる「手紙」では０点。

全訳

ⓐいくつかのことに関しては，記憶力が普段ほど完全には働かないということは認められなくてはならない。ⓑ自分がかかっている医者が処方してくれた薬をいつも忘れずに飲む人は，非常に几帳面な人だけであると私は思うのである。薬というのは，覚えておくのが最も簡単なものの１つであるはずなので，このことは，ますます驚きである。普通，薬は食前か食間か食後に飲むことになっており，食事それ自体が，薬を飲むことを思い出させるものであるはずだ。しかしながら，薬を忘れずに規則正しく飲む人は，道徳的にきわめて立派な人を除いてほとんどいないという事実が依然としてある。ある心理学者達は，我々が物を忘れるのは，忘れたいと願っているからであると言っている。また指定された時間に薬を覚えておくことができない人が多いのは，薬に対する反感のためであるかもしれない。しかし，これは，ⓔ私自身のような終生の薬好きが，薬を飲むのが嫌でたまらない人々と同じくらい薬を飲むことを忘れやすいのはなぜなのかということを明らかにしていない。私は新しい，広く宣伝される万能薬のことを考えるだけで，わくわくしてくるのだ。しかし，たとえ私がポケットの中にその万能薬を入れていたとしても，それを飲むべき時間が近づくとすぐに，私はそのことを忘れてしまうのだ。ⓕ薬店は，人々が飲むのを忘れる薬によって一財産を作るのである。

物忘れの最もよくある形は，手紙を投函することに関して起こるように思われる。それは非常によくあることなので，私は帰って行く訪問客に重要な手紙を投函するよう託すことをいつもためらうのだ。ⓖ私はその人の記憶力などほとんど信用していないので，手紙を渡す前にその人に誓いをさせるのである。私自身に関しては，私に手紙を投函してくれと頼んだ人は皆，人を見る目のない人である。私はたとえ手紙を手に持っていても，いつも最初の郵便ポストを通り過ぎてからやっと，手紙を投函すべきであったことを思い出すのである。ⓗ手紙を手に持っていることにあきあきして，安全のために手紙をポケットに入れ，そしてそのことについてすっかり忘れてしまうのである。その後，その手紙は平穏無事な生活を送るが，やがて長い一連の出来事の後，私を困惑させるような多くの質問がなされ，ついには私が自分のポケットから有罪の証拠を取り出さざるを得なくなるのである。これは，他人の手紙には関心がないからに違いないと思われるかもしれないが，それでは説明にはならない。というのは，私自身が出さなければならないと覚えている数少ない手紙のうちでさえ，投函するのを忘れてしまうものがあるからである。

注

ℓ.1 ◇in〔with〕regard to ～「～に関しては」（= about）
◇which　先行詞は some matters であり，the memory works with less than its usual perfection *in regard to* some matters が元来の形。

ℓ.2 ◇with less than its usual perfection「通常以下の完全さを伴って」→「通常よりも不完全に」

ℓ.3 ◇the ＋ 比較級 because〔for〕…「…のためにその分だけますます～」

ℓ. 4 ◇ as a rule ＝ in general「概して；普通は」

ℓ. 5 ◇ be supposed to …「…することになっている」

ℓ. 6 ◇ reminder「思い出させるもの」 *cf.* remind

◇ the fact remains that …「…という事実は依然としてある；それでもやはり…である」同格の名詞節を導く接続詞 that。

◇ few but ～「～を除いてほとんどない」

○ but *prep.*「～を除いて」（＝ except that）

◇ moral giant「道徳的に立派な偉人」

giant は「才能や知力などを備えた人；偉人」の意。

ℓ. 7 ◇ certain「ある」

わかっているが言及を避ける時に用いる。

◇ psychologist「心理学者」

ℓ. 8 ◇ it may be that …「…ということかもしれない」

Ex. It may *be that* my brother is alone.（兄は孤独かもしれない。）

（＝ My brother *may be* alone.）

◇ it is because of ～ that …「…は～のためである」it is ～ that … で強調構文。

◇ antipathy to ～「～に対する反感」⇔ sympathy with〔for〕～

◇ pill「錠剤」

ℓ. 9 ◇ fail to … ＝ be unable to …

◇ at the appointed hours「決められた時間に」

ℓ. 11 ◇ the very prospect of ～「ただ～の期待だけで」

○ the very ＝ the mere　この very は形容詞。

○ of … 目的格。

ℓ. 12 ◇ cure-all「万能薬」（＝ panacea [pǽnəsíːə]）

◇ delight ～「～を喜ばせる」

◇ yet「しかし」

◇ even if …「たとえ…でも」

◇ the stuff ＝ a new and widely advertised cure-all ＜ stuff $\boxed{\text{U}}$「物」

ℓ. 13 ◇ as soon as … ＝ the moment …

◇ swallow ～「（食べ物・飲み物・錠剤など）を噛まずに飲み込む」

◇ chemists make their fortunes out of the medicines people forget to take

「薬店は，人々が飲むのを忘れる薬から，一財産を作る」

○ chemist「薬剤師；薬店」

※これはイギリス英語の用法で，アメリカ人にはまず通じない。正統なアメリカ英語なら，薬剤師なら druggist，薬店なら pharmacy というのが２人のインフォーマントのコメント。

◇ make one's fortune「一財産を作る」

ℓ. 15 ◇ the commonest（最上級）＜ common「普通の；よくある」

◇ forgetfulness

ℓ. 10 の be forgetful of を受けているので，「健忘症；怠慢」の意味ではなく，「物忘れ」の意味である。

◇ in the matter of ～「～の件に関しては」

◇ post letters「手紙を投函する」post は動詞。

ℓ. 16 ◇ *So* common is it *that* …

it is *so* common *that* … の so common が文頭に出た，疑問文と同形の倒置形。

○ so ～ that … 構文。

○ it は前文の「手紙を出すのを忘れること」という内容を指す。

◇ be reluctant to …「…したくない；…することに気が進まない」

◇ trust A to …「Aを信頼して…させる」

◇ a departing visitor「帰って行く訪問客」

○ depart「去る」

ℓ. 18 ◇ as for myself = as far as I am concerned「私自身に関しては」

◇ a poor judge of character「人を見る目がない人」

a poor judge は「判断力の乏しい者」，character は「人格；性格」の意。

ℓ. 19 ◇ I am always past ～ before …「…する時にはいつも～を通り過ぎている」

◇ pillar-box「（円柱形の赤い）郵便ポスト」（= postbox）

ℓ. 20 ◇ weary of holding it in my hand，準補語。

○ weary of ～「～にあきあきして；～にうんざりして」

cf. weary from〔with〕～（～で疲れている）

ℓ. 21 ◇ unadventurous「冒険的でない；危険でない」→「平穏無事な」

ℓ. 22 ◇ a chain of ～「一連の～」

◇ circumstances「出来事；事実」

◇ lead to ～「～に至る」

◇ a number of embarrassing questions は，動名詞 being asked の意味上の主語。

○ a number of ～「多くの～」

○ embarrassing *adj.*「困惑させる」 *cf.* embarrass

ℓ. 23 ◇ be compelled to …「…せざるを得ない」

cf. compel A to …「Aに…することを強要する」

◇ This, it might be thought, must be due to ～

≒ It might be thought that this must be due to ～

ℓ. 24 ◇ due to ～「～のための；～による」

◇ a lack of ～「～の欠如」

ℓ. 25 ◇ forget to …「…するのを忘れる」 *cf.* forget …ing（…したことを忘れる）

◇ write letters = communicate in writing；send letters

【3】

A.

解答

（a）（1）This is a supermarket that〔which〕is open all night.

（2）This is the hospital which〔that〕my sister was born in.

〔This is the hospital in which my sister was born.〕

（3）What I want is an encyclopedia.

（b）（1）I always do what I believe is right.

（2）What you say is often quite different from what you mean.

〔What you say and what you mean are often quite different.〕

（3）Any person（that）you ask will give the same answer.

（c）（1）This is all the money（that）I have.

（2）The book with the torn cover〔whose cover is torn〕is mine.

（3）Heaven helps those who help themselves.

解説

（a）（1） 英語では，「ここはスーパーです」と言っておいてから，その「スーパー」を説明する「一晩中開いている」という関係詞節をつなげる。

「ここはスーパーです」はもちろん，this is a supermarket でよい。

「一晩中開いている」は「状態」なので，open という形容詞を補って，is open all night とする。不足しているもう１語は，その主語となる主格の関係代名詞なので，that または which ということになる。

（2）「ここは病院です」は，this is the hospital に対応する。

「私の姉が生まれた（病院）」を表すのに，もし「１語不足」という条件であれば，（the hospital）*where* my sister was born となるが，ここでは「２語不足」という条件なので，関係代名詞と前置詞 in を補うことになる。したがって，（the hospital）*in which* my sister was born，または，（the hospital）*which*〔*that*〕my sister was born *in* とする。

（3）「僕は百科事典が欲しい」は，I want an encyclopedia だけでも表すことができるが，これでは「２語不足」という条件を満たせない。そこで，「僕が欲しいものは百科事典だ」と考えて，関係代名詞 what と動詞 is を補って，*What* I want *is* an encyclopedia. とする。ところで，What I want is an encyclopedia. という文から what と is を取り除くと，I want an encyclopedia. のように文が成立するのを不思議に思わないだろうか。実は，What ～ is …. には It is ～ that …. と似たような働きがあり，擬似強調構文と言われている。

（b）（1）「私はいつも…する」は I always … と書き出せばよい。

次の「自分が正しいと信じていること」が問題であるが，「what を用いて」という条件がヒントになる。結論を言えば，*what* I believe is right，または，*what* I believe（to be）right となる。前者は，I believe something is right. → something that I believe is right → *what* I believe is right，後者は，I

believe something to be right. → something that I believe to be right → *what* I believe to be right という過程で形成された。

（2）「口と心は裏腹なことが多い」が「言っていることと意図していることはまったく異なることが多い」という意味を表すことがわかっていれば，容易な問題と言える。「what を２度用いて」という条件に従って，「言っていること」は *what* you say〔one says〕（say の代わりに tell，speak，talk は不可），同様に，「意図していること」は *what* you mean〔one means〕。
「異なる」は be different。
「…ことが多い」は「…である頻度が高い」と考えて，often で表す。

（3）日本文通り英語に訳せば，No matter who you ask, the answer will be the same. のようになるが，「Any で始める」という条件なので，「あなたが尋ねるどんな人でも同じ答えをするだろう」と考えて，*Any* person（whom〔that〕）you ask will give the same answer. とする。この場合，関係代名詞を省略してもよい。

（c）（1）「これが私の持っているすべてのお金だ」と考えるのが英語の発想。したがって，This is all the money（that）I have. となる。また，関係形容詞の what を用いて，This is *what*（little）money I have. としてもよい。

（2）「表紙が破れている本」をどう表すかがポイント。
「（～の）表紙」は（one's）cover。
「（紙や布などを）破る」は tear，または rip を用いるので，「表紙が破れている本」は the book *whose* cover is torn〔ripped〕となる。関係代名詞を用いなければ，「破れた表紙の付いた本」と考えて，the book *with* the torn cover となる。この方が whose を用いるよりも自然な表現となる。

（3）「天」は「神」の意で，Heaven を用いる。
「自ら助くるもの」は，「…する人々」を表す those who … を用いればよい。
「自ら助くる」は，再帰代名詞を用いて help oneself とする。したがって，those who help themselves となる。これは 16 世紀前半に登場したことわざで，英米人の常識であり，入試でも頻出のものなので，すぐに口から出てくるようにしておきたい。

B．

解答

（1）A：How do you like the book（that）I lent you a couple of days ago?
B：It's difficult reading. I'm only halfway through it.

（2）A：Sorry, I broke the windowpane, Mother.
B：Oh, that's what I was afraid of. You're such a naughty boy.

解説

（1）「～をどう思うか」は，「どの程度気に入っているか」を尋ねる時の決まり文句，How do you like ～？や，相手の意見を聞く時の表現，What do you think of ～？を用いる。また，より具体的に「～を楽しんでいるか」のように考えて，Are you enjoying ～？

や，「～についてのあなたの意見を聞かせて下さい」と考えて，Tell me your opinion about〔what you think of〕～. とすることもできる。

「この間貸してあげた本」は，the book（that〔which〕）I lent you a couple of〔a few；some；several〕days ago〔the other day〕でよい。（英語の the other day は，日本語の「この間」とは少し意味合いが異なり，「２，３日からせいぜい１週間くらい前」の比較的近い過去を表すので注意。）

「読むのに骨が折れる」は「（あの本は）読むのが難しい」と考えて，It（= The book）is hard〔difficult〕to read.，または，「（あの本を）読むことは難しい」と考えて，It is hard〔difficult〕to read it（= the book). とすればよい。ところで，「**解答**」で示した It's difficult reading. は，このどちらにも当てはまらない表現であるが，この reading は抽象名詞で「読み物」の意味で，difficult reading は「難しい読み物」となる。

「半分までしかいっていない」は「半分までいった」という「状態」を表すので，be through ～（～を終えている）という表現を応用して，be only halfway through ～を用いる。halfway は「半分だけ」の意の副詞で，only を付ければ「やっと半分」の意味合いが出る。

（２）「お母さん，窓ガラスを割ってしまいました」は，子供が母親に謝っている状況であるから，（I'm）sorry で書き出すのが自然。

「窓ガラス」は window(pane)，「（窓ガラスを）割る」は break が一般的（「粉々に割る」場合は smash を用いる）。

「それが心配だったのよ」は，「私はそのことを心配していた」と解釈して，That's what I was afraid of〔anxious about〕. とする。この That's what …. という表現は会話で頻出のパターンの１つである。

「お前は本当にわんぱくなんだから」の「だから」は無視して，You're a naughty〔mischievous〕boy. でよい。

「本当に」の意味合いを出すには，such や really を入れればよい。

【４】

解答

（１） which → that
（２） whom → that〔as〕
（３） that → which
（４） that → as
（５） them → whom
（６） of〔about〕を文末に加える
（７） which → in〔at；from〕which または where
（８） it をとる
（９） which → what
（10） which little → what little

解説

（1）「多くの人と馬がその戦いで殺された。」
先行詞が「人」＋「人以外」の場合，that を用いる。
○ quite a few ＝ many

（2）「この人は私が電車の中で見たのと同じ人だ。」
the same は that または as で受ける。
○ the same ～ as〔that〕…「…と同じ～」

（3）「彼はかなりの額を申し出たが，彼女は断った。」
that に非制限用法はない。

（4）「子供がより良く，より賢くなるような本を読ませなさい。」
○ such ～ as …「…のような～」

（5）「彼女には２人の息子がいるが，２人とも海外で働いている。」
○ , both of whom ＝ , and both of them

（6）「彼らはその経歴についてまったくわからない男を雇った。」
○ They employed the man. ＋ They knew nothing of〔about〕*his* past.

（7）「彼が必要としたものは，愛情と理解が得られる家庭であった。」
What he needed was a home. ＋ He would receive love and understanding *in*〔*at*；*from*〕the home. と考える。

（8）「少し高いと思った帽子を買った。」
which が found の目的語として働くので it は必要ない。

（9）「礼儀作法は人間を動物と区別するものである。」
主格補語になる名詞節にするには，先行詞が必要。したがって先行詞をその中に含む what にする必要がある〔＝ that which，the thing(s) which〕。

(10)「彼女は大量の食物を持ってきた。その光景を見て，私に残っていたささやかな食欲も消え失せた。」
関係形容詞の what の用法。what little〔few〕～ で「ささやかだがすべての～」の意を表す。what little appetite（that）I had left と関係代名詞が省略されている。
○ the sight of ～「～の光景」

【5】

解答

（1） There is no rule but has some exceptions(.)
（2） Reading is to the mind what food is to the body(.)
（3） (The person) who we believed was guilty proved to be innocent(.)
（4） (Beauty is) a letter of recommendation which it is almost impossible to ignore(.)
（5） (The man) whose work it is to amuse people who (attend a show is an entertainer.)
（6） (He knew everyone) whom it was an honor to know(.)
（7） (There was not anything) he wished to have which〔that〕he was denied(.)
（8） (I am not) in the least what you think I am(.)

解説

（1） 疑似関係代名詞 but。否定の意味を持つ語を先行詞にとり，「…しない～はない」と二重否定の意味を表す〔= that … not〕
この but の用法は古語であるので，作文では避ける。
〔= There is *no* rule *that* does *not* have any exceptions.〕

（2） ○A is to B what C is to D「AとBの関係はCとDとの関係と等しい」

（3） 連鎖関係代名詞節（who ～ guilty）を作る。
The person proved to be innocent.　We believed *he* was guilty.〔主格〕
→後の文の he を関係代名詞 who にして前に移行すると，who we believed was guilty の語順となる。

（4） which が It（形式主語）is ～ to …. 構文の to ignore の目的語 a letter of recommendation を先行詞にとった形。
○ a letter of recommendation「推薦状」

（5） The man is an entertainer.　It is his work to amuse people who attend a show.
→この２文を結びつけた形。後の文の his work を所有格 whose を用いて whose work として前に移行すると，The man whose work it is to amuse people … という語順になる。
It は形式主語で，to … を受けた形。

（6） whom が It（形式主語）is ～ to …. 構文の to know の目的語 everyone を先行詞にとった形。

（7） which〔that〕の先行詞は，anything he wished to have である。
○ deny A（人）B（物）「A（人）にB（物）を与えない」

（8） ○ not in the least …「まったく…ない」（= not at all）
you think の位置に注意。
I am not in the least C.　You think I am C.
→ この２文が結びついた形。後の文のCを what にして前に移行すると，what you think I am の語順になる。